

事後評価書

箇所名	みきうらちく 三木浦地区	事業名	県営広域漁港整備事業	課名	水産基盤整備課
事業概要	工期	平成15年度～平成23年度	全体事業費	2,305百万円（負担率：国50：県35：他15）	
	(下段：平成14年度事前評価)	平成15年度～平成23年度	(下段：平成14年度事前評価)	2,425百万円（負担率：国50：県35：他15）	
事業目的及び内容		<p>◇事業目的 当漁港は、尾鷲市賀田湾の東側に位置しており、背後には人口約600人の三木浦地区があります。また、昭和28年に第4種漁港に指定されており、台風等の影響を受けにくいことから熊野灘沿岸の周辺漁港からの避難港として利用されています。さらに、港内水域を利用した養殖漁業が盛んであり、養殖漁業の拠点として、陸揚げ・出荷、資材補修、餌積み込み等に利用されています。</p> <p>しかし、当漁港では、荒天時に安全に係留できる岸壁が不足していました。さらに、集落内の道路が非常に狭く危険であると共に、大型車による効率的な輸送も不可能でした。また、養殖のための岸壁や用地も不足していました。</p> <p>そこで、これらの改善を目的として、荒天時休けい用係留施設と、臨港道路、物揚場、用地を整備し、避難港としての機能の向上、漁業の効率化・安全性向上、地域の利便性向上を図りました。</p>			
		<p>◇事業内容 -3.0m岸壁(L=100m)、-4.0m岸壁(L=20m)、-2.0m物揚場(B)(L=120m)、臨港道路(L=460m)、-2.0m物揚場(A)(L=70m)、用地(A=1,500m²)</p>			
1. 事業の効果					
◇費用対効果分析 費用対効果分析は、「水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン、平成29年4月改訂、水産庁漁港漁場整備部」の手法に準じて実施しました。					
		H14全体計画 (基準年:H14)	H29事後評価 (基準年:H29)	備考	
便益	総便益額(B)	2,918,921 千円	5,777,139 千円		
	年間便益額			【発表資料での効果】	
	①休けい岸壁による安全性向上・避難作業効率化	75,315 千円/年	44,611 千円/年	・休けい岸壁の整備による避難船の増加、避難の効率化、漁船同士の接触防止による耐用年数向上	
	②臨港道路整備による漁業の効率化・住民の利便性向上	54,848 千円/年	60,044 千円/年	・臨港道路の整備による、大型車による資料・機材の搬入に伴う作業効率化 ・臨港道路の整備による、交通の円滑化による漁業の効率化 ・臨港道路の整備による、交通円滑化による住民の利便性向上	
	③臨港道路による越波低減の副次的効果	37,100 千円/年	78,884 千円/年	・臨港道路・用地・岸壁による浸水被害の防止効果	
	④藻場創出による副次的効果	2,778 千円/年	8,040 千円/年	・藻場の創出による水質浄化効果	
	合計	170,041 千円/年	191,579 千円/年		
費用	総費用(C)	1,895 百万円	4,183 百万円		
	事業費	2,305 百万円	2,425 百万円		
	維持管理費	1,000 千円/年	1,000 千円/年		
費用対効果分析(B/C)		1.54	1.38		
算定基礎となった主な要因の変化				【主な要因の変化の理由】	
荒天時の避難船数		571隻	511隻	漁船数の減	
臨港道路の年間延べ往復回数		26,805 回/年	63,225 回/年	道路利用回数の増	
養殖用餌料の搬入回数		整備前:458回 ⇒整備後:183回	整備前:780回 ⇒整備後:256回	魚種の多様化による餌の種類・量の増加	
藻場創出面積		2,250m ²	20,800m ²	工法変更による藻場創出面積の増	
労働環境の評価基準の更新		整備前:過重労働 ⇒整備後:通常作業	整備前:通常作業 ⇒整備後:通常作業	ガイドライン改訂による評価指標の変更に伴う減	
公共土木施設被害率		0.702	1.803	指針改訂による被害率変更に伴う増	
◇その他の効果					
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・小中学生の歩行時の安全性の向上 ・臨港道路の整備による緊急車両の行動範囲の拡大 ・藻場の造成によるイセエビ・サザエ等の保護・生育による生物多様性の促進 					

2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・臨港道路の海中基礎を自然石とする工法を採用することで、新たに藻場が形成されました。藻場は、水質浄化などの自然環境を保護・修復する機能を持っており、創出された藻場による水質浄化効果が発現しています。 ・藻場では現在、ウニ、サザエ、稚魚などの生息が確認されており、藻場は新たな生物生産の場としても機能しています。
3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ◇漁業者の減少・高齢化 漁業者の減少・高齢化が進行しており、これに伴う生産力の低下が問題となっております。 ◇三木浦地区の養殖漁業 ・漁業者の減少・高齢化が進む中、持続可能な養殖業を確立するために、マダイ中心の生産からより付加価値の高いマハタなどに魚種転換を行い、生産性の向上を図っています。 ・自動給餌機などによる作業効率化や、高品質な餌の活用による養殖魚のブランド化による生産性の向上を図っています。
4. 県民の意見	<p>平成29年7月に、整備した施設の利用状況および利用者の満足度の把握を目的として、漁港背後の三木浦地区の全310世帯を対象に漁港整備に関するアンケートを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇アンケート回収率 漁業関係者：82%(99世帯/121世帯) 一般利用者：28%(53/189世帯) 全体：48%(152/310世帯) ◇臨港道路の整備効果に関する主な意見 臨港道路については、漁業関係者の98%、一般利用者の94%が以前よりも良くなったと回答しております。 ○良くなった点 <ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備によって大型車で餌の運搬ができるようになり、効率良く作業ができるようになった。 ・道路が安全になり、事故の心配が減った。 ・通学路の安全確保に役立っている。 ・バスが港奥地域まで入ることで、体の不自由な方が喜んでいる。 ○悪くなった点 <ul style="list-style-type: none"> ・湾内を埋め立てたことにより潮の流れが変わってしまった。 ・町外からのドライバーがスピードを落とさずに走る。 ◇休けい岸壁の整備効果に関する主な意見 休けい岸壁については、漁業関係者の86%、一般利用者の57%が良くなったと回答しております。 ○良くなった点 <ul style="list-style-type: none"> ・岸壁が広がったため、防災面で改善された。 ・避難場所が広くなり、船が着けやすくなった。 ・作業スペースが広がり、大型車が転回できるようになるなど、良くなった。 ・視野が広がり、安全性が向上したため、散歩がしやすくなった。 ○悪くなった点 <ul style="list-style-type: none"> ・一部の岸壁では階段型になっていて、船舶の横付に不便である。 ・釣りができる場所が少なくなった。
5. 再評価の経緯	事業再評価は実施しておりません。
6. 今後の課題等	<p>漁業者の高齢化、後継者不足による減少、水産資源量の減少、魚価の低下など、様々な課題があり水産業は低迷しています。</p> <p>三木浦地区は、その地形を生かした海面養殖業主体の漁業がおこなわれており、基幹漁業である養殖業の生産性を維持していくことが課題です。</p> <p>今後の漁港整備においては、整備された岸壁・道路等の効果が継続的に発揮されるように適切に維持管理をおこなっていく必要があります。</p> <p>また、既存施設については、ライフサイクルに応じた計画的な保全対策、利用環境の変化に応じた施設の改良を行っていく必要があります。</p> <p>以上のことを実行することにより、「漁業活動の拠点」「水産物流通の出発点」といった漁港機能が十分発揮され、持続可能な漁業経営を支えていくことができます。</p>